

(様式第 10)

岡大病総第 91 号
令和元

厚生労働大臣

殿

国立大学法人岡山大学長
榎 野 博

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目 1 番 1 号
氏 名	国立大学法人 岡山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岡山大学病院

3 所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目 5 番 1 号	電話 (086) 223-7151
----------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	④	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 呼吸器内科	② 消化器内科	③ 循環器内科
5 神経内科	6 血液内科	7 内分泌内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科
4 腎臓内科		8 代謝内科
診療実績 呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科及びリウマチ科で提供される医療については内科において提供している。また、神経内科で提供される医療については、脳神経内科において提供している。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	⑦	・	無
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	⑥心臓血管外科	7内分泌外科	⑧小児外科
診療実績			
呼吸器外科、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療については外科において提供している。 また、消化器外科で提供される医療については消化管外科及び肝・胆・膵外科において提供している。			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	⑦	・	無
歯科と組み合わせた診療科名			
①小児歯科 ②矯正歯科 ③口腔外科			
歯科の診療体制			

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 脳神経内科	2 消化管外科	3 肝・胆・膵外科	4 形成外科	5 小児神経科
6 病理診断科	7 リハビリテーション科	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21				

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
34床	2床	床	床	819床	855床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	311人	438人	610.4人	看護補助者	47人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	95人	184人	179.8人	理学療法士	28人	臨床検査技師	70人
薬剤師	72人	0人	72.0人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	30人	2人	31.5人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,016人	25人	1031.1人	臨床工学士	25人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	38人
歯科衛生士	17人	0人	17.0人	歯科技工士	8人	事務職員	407人
管理栄養士	10人	0人	10.0人	診療放射線技師	56人	その他の職員	23人

注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	52人	眼科専門医	16人
外科専門医	47人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	15人	放射線科専門医	21人
小児科専門医	23人	脳神経外科専門医	13人
皮膚科専門医	11人	整形外科専門医	29人
泌尿器科専門医	16人	麻酔科専門医	34人
産婦人科専門医	26人	救急科専門医	18人
		合 計	334人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (金澤 右) 任命年月日 平成29年4月1日

医療事故防止委員会委員長	平成29年4月1日～令和元年5月31日
医療事故防止委員会委員	平成16年4月1日～令和元年5月31日
医療安全管理委員会委員長	令和元年6月1日～現在
医療安全管理委員会委員	令和元年6月1日～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	604.4 人	15.3 人	619.7 人
1日当たり平均外来患者数	2,043.6 人	670.8 人	2,714.4 人
1日当たり平均調剤数			1,049.8 剤
必要医師数			178 人
必要歯科医師数			36 人
必要薬剤師数			35 人
必要（准）看護師数			402 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	m ² 1,161.6	鉄筋コンクリート	病床数 60床 人工呼吸装置 有・無 その他の救急蘇生装置 有・無	心電計 ④・無 心細動除去装置 ④・無 ペースメーカー ④・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 234.5 m ² [移動式の場合] 台数 一 台		病床数	25 床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名 一			
化学検査室	362 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動化学発光免疫測定装置, 生化学自動分析装置 外	
細菌検査室	130 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物分類同定分析装置, 全自動細菌同定感受性検査装置, 孵卵器 外	
病理検査室	197 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置, 自動染色装置, 自動免疫染色装置, クリオスタット 外	
病理解剖室	111 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台, 遺体保存用冷蔵庫 外	
研究室	5,211 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー, クリーンベンチ, 冷蔵庫, 冷凍庫, 中央実験台 外	
講義室	1,281 m ²	鉄筋コンクリート	室数 7 室	収容定員 947 人
図書室	1,938 m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室	蔵書数 223,600 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		82.9%	逆紹介率	91.3%
算出根拠	A：紹介患者の数	24,283人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	28,014人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,153人		
	D：初診の患者の数	30,700人		

- 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会（会長）	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ 無	1
長谷川 威	長谷川威法律事務所（弁護士）		法律に関する識見を有するため	有・ 無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学（名誉教授）		医療を受ける者の代表者	有・ 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
LDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	0人
テモゾロミド強化療法	1人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。例えば高度な症例としては、健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式がある。			
医療技術名	死体肺移植	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 ドナーの片肺、または両肺を、移植を受ける方(レシピエント)の片方または両方の肺と入れ替える方法である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名	死体肝移植	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常、肝臓全部を採取し、それをレシピエントに移植する方法である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	9	56 ペーチェット病	79
2 筋萎縮性側索硬化症	42	57 特発性拡張型心筋症	100
3 脊髄性筋萎縮症	5	58 肥大型心筋症	21
4 原発性側索硬化症	0	59 拘束型心筋症	0
5 進行性核上性麻痺	20	60 再生不良性貧血	25
6 パーキンソン病	194	61 自己免疫性溶血性貧血	1
7 大脳皮質基底核変性症	5	62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8 ハンチントン病	9	63 特発性血小板減少性紫斑病	29
9 神経有棘赤血球症	0	64 血栓性血小板減少性紫斑病	0
10 シャルコー・マリー・トゥース病	1	65 原発性免疫不全症候群	11
11 重症筋無力症	75	66 IgA 腎症	50
12 先天性筋無力症候群	0	67 多発性嚢胞腎	43
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	55	68 黄色靱帯骨化症	7
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	26	69 後縦靱帯骨化症	67
15 封入体筋炎	3	70 広範脊柱管狭窄症	10
16 クロウ・深瀬症候群	0	71 特発性大腿骨頭壊死症	33
17 多系統萎縮症	34	72 下垂体性ADH分泌異常症	13
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	70	73 下垂体性TSH分泌亢進症	2
19 ライソゾーム病	8	74 下垂体性PRL分泌亢進症	24
20 副腎白質ジストロフィー	1	75 クッシング病	10
21 ミトコンドリア病	6	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22 もやもや病	45	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	35
23 プリオン病	0	78 下垂体前葉機能低下症	128
24 亜急性硬化性全脳炎	1	79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25 進行性多巣性白質脳症	0	80 甲状腺ホルモン不応症	0
26 HTLV-1関連脊髄症	0	81 先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27 特発性基底核石灰化症	0	82 先天性副腎低形成症	0
28 全身性アミロイドーシス	13	83 アジソン病	1
29 ウルリッヒ病	0	84 サルコイドーシス	94
30 遠位型ミオパチー	0	85 特発性間質性肺炎	57
31 ベスレムミオパチー	0	86 肺動脈性肺高血圧症	57
32 自己食空胞性ミオパチー	0	87 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	3
33 シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88 慢性血栓性肺高血圧症	5
34 神経線維腫症	38	89 リンパ脈管筋腫症	21
35 天疱瘡	20	90 網膜色素変性症	21
36 表皮水疱症	2	91 バッド・キアリ症候群	5
37 膿疱性乾癬(汎発型)	7	92 特発性門脈圧亢進症	1
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93 原発性胆汁性肝硬変	89
39 中毒性表皮壊死症	0	94 原発性硬化性胆管炎	8
40 高安動脈炎	21	95 自己免疫性肝炎	34
41 巨細胞性動脈炎	8	96 クローン病	183
42 結節性多発動脈炎	13	97 潰瘍性大腸炎	380
43 顕微鏡的多発血管炎	44	98 好酸球性消化管疾患	0
44 多発血管炎性肉芽腫症	22	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46 悪性関節リウマチ	13	101 腸管神経節細胞減少症	0
47 バーシャー病	5	102 ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103 CFC症候群	0
49 全身性エリテマトーデス	220	104 コステロ症候群	0
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	101	105 チャージ症候群	0
51 全身性強皮症	96	106 クリオピリン関連周期熱症候群	0
52 混合性結合組織病	26	107 全身型若年性特発性関節炎	4
53 シェーグレン症候群	18	108 TNF受容体関連周期性症候群	0
54 成人ステル病	6	109 非典型溶血性尿毒症症候群	0
55 再発性多発軟骨炎	6	110 ブラウ症候群	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	3	161 家族性良性慢性天疱瘡	1
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
113 筋ジストロフィー	5	163 特発性後天性全身性無汗症	1
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	1
116 アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	1
117 脊髄空洞症	8	167 マルファン症候群	1
118 脊髄髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	1	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	4
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ベリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	1	177 有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	1
133 メビウス症候群	1	183 ファイファー症候群	1
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ピクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	1	186 ロスマンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	1	188 多脾症候群	1
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	2
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠神てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	0
144 レノックス・ガストー症候群	2	194 ソース症候群	0
145 ウェスト症候群	1	195 ヌーナン症候群	1
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	2
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	10	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	2	209 完全大血管転位症	4
160 先天性魚鱗癬	0	210 単心室症	9

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	4	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	8	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	4	264	無βリボタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	39	270	慢性再発性多発性骨髄炎	2
223	一次性膿性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	6	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	6	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	2
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	5
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	32

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病	0	319 セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308 進行性白質脳症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309 進行性ミオクローヌスてんかん	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
310 先天異常症候群	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311 先天性三尖弁狭窄症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312 先天性僧帽弁狭窄症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
313 先天性肺静脈狭窄症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
314 左肺動脈右肺動脈起始症	0	326 大理石骨病	0
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316 カルニチン回路異常症	0	328 前眼部形成異常	0
317 三頭酵素欠損症	0	329 無虹彩症	0
318 シトリン欠損症	0	330 先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般)	・後発医薬品使用体制加算3
・特定機能病院入院基本料(精神科)	・病棟薬剤業務実施加算1及び2
・臨床研修病院入院診療加算	・データ提出加算2
・救急医療管理加算	・提出データ評価加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・精神科急性期医師配置加算
・医師事務作業補助体制加算	・救命救急入院料1
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料4
・看護職員夜間配置加算	・特定集中治療室管理料1
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料3
・重症者等療養環境特別加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算1及び2	・一類感染症患者入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん拠点病院加算	
・がんゲノム医療提供保険医療機関加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算	
・患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・高度難聴指導管理料	・国際標準検査管理加算
・糖尿病合併症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料イ、ロ及びハ	・植込型心電図検査
・外来緩和ケア管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	・胎児心エコー法
・小児運動器疾患指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・外来放射線照射診療料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ニコチン依存症管理料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・療養・就労両立支援指導料	・脳波検査判断料1
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・神経学的検査
・がん治療連携計画策定料	・補聴器適合検査
・がん治療連携管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・認知症専門診断管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・内服・点滴誘発試験
・薬剤管理指導料	・センチネルリンパ節生検(片側)
・医療機器安全管理料1及び2	・画像診断管理加算1及び3
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・遠隔画像診断
・持続血糖測定器加算	・CT撮影及びMRI撮影
・造血器腫瘍遺伝子検査	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝学的検査	・外傷全身CT加算
・骨髓微小残存病変量測定	・心臓MRI撮影加算
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・乳房MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・小児鎮静下MRI撮影加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・頭部MRI撮影加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・外来化学療法加算1	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・無菌製剤処理料	・網膜再建術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・人工中耳植込術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・廃用症候群リハビリテーション料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・運動器リハビリテーション料(I)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
・リンパ浮腫複合的治療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る)
・精神科作業療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・人工腎臓	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔湯要手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・導入期加算2	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・透析液水質確保加算	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を越えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・慢性維持透析濾過加算	・同種死体肺移植術
・一酸化窒素吸入療法	・生体部分肺移植術
・皮膚悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・皮膚移植術(死体)	・内視鏡下筋層切開術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膀胱瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・経皮的冠動脈形成術
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・経皮的冠動脈ステント留置術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・同種死体腎移植術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術	・生体腎移植術
・両室ペースンク機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースンク機能付き植込型除細動器交換術	・膀胱水圧拡張術
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的大動脈遮断術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ダメージコントロール手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則4(性同一性障害の患者に対して行うものに限る。)に掲げる手術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・輸血管理料 I
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・体外衝撃波胆石破碎術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下肝切除術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・生体部分肝移植術	・レーザー機器加算
・同種死体肝移植術	・麻酔管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・外来放射線治療加算
・生体部分小腸移植術	・高エネルギー放射線治療
・同種死体小腸移植術	・1回線量増加加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・体外照射呼吸性移動対策加算	・歯根端切除手術の注3
・定位放射線治療	・口腔病理診断管理加算2
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・画像誘導密封小線源治療加算(IGBT)	・歯科矯正診断料
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・総合医療管理加算	
・歯科治療時医療管理料	
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	
・精密触覚機能検査	
・歯科画像診断管理加算1及び2	
・歯科口腔リハビリテーション料2	
・手術用顕微鏡加算	
・口腔粘膜処置	
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	
・CAD/CAM冠	
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	
・歯周組織再生誘導手術	
・手術時歯根面レーザー応用加算	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・骨髄微小残存病変量測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	【病理診断部門】 ・剖検症例検討会 月1回程度 ・肝胆脾臓外科とのカンファレンス 月2回程度 ・乳腺・内分泌外科とのカンファレンス 週1回程度 ・脳神経外科との脳腫瘍カンファレンス 月1回程度 ・産科婦人科との婦人科腫瘍カンファレンス 週1回程度 【臨床検査部門】 ・総合内科との症例検討会 月1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 13 例 / 剖検率 4.8 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
卵巣と中枢を繋ぐ生殖内分泌モデュレーターBMPの分子機能解析	大塚 文男	総合内科	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
医学生・臨床研修医の「物語能力」教育プログラム開発のための調査研究	小比賀 美香子	総合内科	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
治癒を目指すための肺癌幹細胞を利用した次世代肺癌マウスモデルの基礎的臨床的検討	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	4,290	補 文部科学省科学研究費補助金
肺癌の治癒を目指すEGFR-TKI、抗EGFR抗体とペバシズマブ併用療法の効果	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	1,040	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
血管周囲造血幹細胞ニッチに着目した、骨髄GVHD発症機構の解明と新規治療法の探索	浅田 騰	血液・腫瘍内科	1,300	補 文部科学省科学研究費補助金
同種造血細胞移植後の閉塞性細気管支炎における組織マクロファージの解析	藤井 伸治	輸血部	1,820	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
新規治療薬のヘルパー/制御性T細胞への作用に基づいた慢性GVHD治療法の開発	西森 久和	血液・腫瘍内科	1,560	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
エピゲノミクスを基盤とした固形癌に対する先生医療の推進と臨床研究による評価	堀田 勝幸	新医療研究開発センター	100	補 文部科学省科学研究費補助金
新たな難治性B細胞性リンパ腫の疾患概念の確立とその新規治療法の探索	遠西 大輔	血液・腫瘍内科	1,560	補 文部科学省科学研究費補助金
間質性肺炎合併肺癌に対する新規治療戦略の開発ー化学予防の観点からー	久保 寿夫	腫瘍センター	2,080	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
エラスターゼ誘導気道炎症および肺気腫進展におけるIL-23の役割の解明	宮原 信明	血液・腫瘍内科	780	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
移植超急性期からの能動的Treg増幅を可能とする新しい免疫制御アルゴリズムの開発	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
ハンセン病医療倫理学の創出に向けた学術的基盤の構築とカリキュラム開発	宮原 信明	血液・腫瘍内科	80	補 文部科学省科学研究費補助金
慢性移植片対宿主病における単球・マクロファージの役割の解明	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	1,560	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
ニューロペプチドYを中心とした慢性閉塞性肺疾患の病態解明と炎症・気腫化制御	谷口 暁彦	呼吸器・アレルギー内科	1,040	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
生殖機能温存がん治療法の革新的発展にむけた総合的プラットフォームの形成	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	300	委 日本医療研究開発機構研究開発費
遺伝子スクリーニング基盤(LC-SCRUM-JAPAN)を利用した、MET遺伝子異常陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	650	委 日本医療研究開発機構研究開発費
急性型およびリンパ腫型成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	299	委 日本医療研究開発機構研究開発費
全国レベルでのデータベースの構築を目指して、SCRUM-Japanへの登録推進と、自施設における臨床データのEDC入力体制の整備	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	200	委 日本医療研究開発機構研究開発費
RET融合遺伝子陽性肺癌に対するアレクチニブの有効性を明らかにする研究	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	650	委 日本医療研究開発機構研究開発費
ROS1融合遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	650	委 日本医療研究開発機構研究開発費
尿中糖鎖プロファイリングによるIgA腎症の診断法の開発	和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科	19,000	補 日本医療研究開発機構研究開発費
尿中糖鎖プロファイリングによるIgA腎症の診断法の開発	和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科	27,000	委 日本医療研究開発機構研究開発費
腹部大動脈瘤におけるVasohibin-2の分子機構の解明	内田 治仁	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,300	補 文部科学省学術研究助成基金助成金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
腹部大動脈瘤発症・進展におけるN型カルシウムチャンネルの分子機構の解明	垣尾 勇樹	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
Semaphorin3aによる糸球体上皮細胞の機能的障害機序の解明	喜多村 真治	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,950	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
脂肪組織のリモデリングを制御する新規蛋白の同定と病態生理学的意義	江口 潤	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
3次元マルチオミックス解析による糖尿病性腎症の新規治療標的の探索と同定	宮本 聡	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,820	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
血清マイクロRNAを用いたANCA関連血管炎における新規バイオマーカーの開発	佐田 憲映	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,170	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
糖尿病性腎症進展におけるFetuin-Aの役割	三瀬 広記	腎臓・糖尿病・内分泌内科	2,730	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
糖尿病性腎症に対する新規治療薬の開発～インフラマソームを標的とした探索的研究～	四方 賢一	新医療研究開発センター	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
自然免疫、炎症、骨代謝の新たな制御機構の解明	松本 佳則	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,300	補 文部科学省科学研究費補助金
尿細管特異的保護機構発現による腎疾患の新規治療法開発	杉山 斉	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,040	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
ガレクチン9ノックアウトモデルマウスを用いたSLEの病態制御機構の解析	川畑 智子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
CLMPの上皮細胞分化における役割とその病態的意義	川北 智英子	血液浄化療法部	2,080	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
メタボリックシンドロームにおけるオルガネラ機能不全と腎尿細管間質障害機構の解明	中司 敦子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,950	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
糸球体上皮細胞障害へのsemaphorin3aの病態機序の解明	辻 憲二	腎臓・糖尿病・内分泌内科	2,600	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
血管新生促進因子Vasohibin-2を標的とした慢性腎臓病の新規治療法の開発	田邊 克幸	血液浄化療法部	1,560	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
全身性エリテマトーデスにおけるRAGE/HMGB1 Axisの病態的関与	渡辺 晴樹	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,170	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
腹部大動脈瘤発症・進展におけるホスホジエステラーゼIIIの分子機構の解明	梅林 亮子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,300	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
メタボリックシンドロームにおけるmiR-342の機能解析	樋口 千草	腎臓・糖尿病・内分泌内科	2,080	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
SLE由来T細胞におけるDNAメチル化で制御されたカテプシンEの機能解析	平松 澄恵	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
腎細小動脈病変に対する寄与因子と形成機序の検討	北川 正史	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,820	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
デジタル心電データを用いた心臓突然死リスク予測ツール構築	森田 宏	循環器内科	1,820	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
RAGE-aptamer封入ナノ粒子による肺高血圧症の新規治療法の開発	中村 一文	循環器内科	1,820	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
大動脈解離におけるインテグリンを介した病態機序の解明と新規治療の基盤構築	三好 亨	循環器内科	1,170	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
高齢者のPlatypnea-orthodeoxia症候群に関する包括的研究	中川 晃志	循環器内科	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
成人先天性心疾患症例における予後予測因子の電気生理学的スコアリング化による検討	渡邊 敦之	IVRセンター	1,170	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
特発性肺動脈性肺高血圧症由来心筋細胞の特性解明と新規治療薬の開発	赤木 達	循環器内科	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
神経変性疾患の包括的分子病態解明に基づく次世代型治療法開発	阿部 康二	脳神経内科	5,200	補 文部科学省科学研究費補助金
多様な神経疾患治療に応用可能な次世代型ダイレクトプログラミング法の総合的開発	山下 徹	脳神経内科	1,300	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
新規疾患修飾遺伝子クロモグラニンBによる神経変性疾患共通分子病態関与の解明	太田 康之	脳神経内科	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
新しい慢性脳低灌流アルツハイマーモデルマウスを用いた新規脳血管保護療法の確立	山下 徹	脳神経内科	1,000	補 (公財)先進医薬研究振興財団循環医学分野一般研究助
難治がん・希少がんに対するp53癌抑制遺伝子搭載武装化ウイルス製剤の実用化のための非臨床試験	藤原 俊義	消化管外科	133,910	委 日本医療研究開発機構研究開発費
臨床病期Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第Ⅲ相試験	藤原 俊義	消化管外科	1,300	委 日本医療研究開発機構研究開発費
既存の診療情報と一体的に運用可能な症例登録システムの構築とアウトカム指標等の分析・利活用に関する研究	藤原 俊義	消化管外科	130	委 日本医療研究開発機構研究開発費
多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立	藤原 俊義	消化管外科	200	委 日本医療研究開発機構研究開発費
酸化によるDNAメチル基転移酵素活性抑制を特異的に阻止する世界初の化合物を用いた最新バイオマーカー開発とがん治療戦略構築	藤原 俊義	消化管外科	2,750	委 日本医療研究開発機構研究開発費
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	西崎 正彦	消化管外科	400	委 日本医療研究開発機構研究開発費
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	白川 靖博	消化管外科	390	委 日本医療研究開発機構研究開発費
胃癌腹膜播種へ及ぼす腹腔内癌微小環境の影響と細胞外小胞体の関与	香川 俊輔	低侵襲治療センター	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
難治性大腸癌のPDXモデルを用いた薬剤耐性に関わる新規バイオマーカーの探索	矢野 修也	卒後臨床研究センター	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
胃癌腹膜播種における癌微小環境の解明と新規治療法の開発	菊地 寛次	低侵襲治療センター	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
消化器癌の悪性化蛍光イメージング技術の開発と抗転移療法への応用	西崎 正彦	消化管外科	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
抗EGFR抗体薬獲得耐性機構の解明と網羅的獲得変異検出システムの開発	母里 淑子	低侵襲治療センター	1,820	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
消化器がん個別化医療のための蛍光ウイルスを用いたデュアル体外診断システムの開発	藤原 俊義	消化管外科	2,470	補 文部科学省科学研究費補助金
転移におけるcluster形成『循環がん微小環境』の解明と標的治療としての可能性	白川 靖博	消化管外科	780	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
癌関連線維芽細胞(CAFs)の免疫抑制機構の解明と標的治療としての可能性	野間 和広	消化管外科	910	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
血漿マイクロRNAを用いた大腸癌肝転移Precision Medicineの構築	煤田 祐三	肝・胆・膵外科	910	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
難治性膵臓癌に対する癌特異的p53遺伝子治療の前臨床評価	田澤 大	新医療研究開発センター	1,950	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
腫瘍選択的融解アデノウイルス製剤と免疫チェックポイント阻害剤との併用効果の検討	黒田 新士	新医療研究開発センター	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上	藤原 俊義	消化管外科	300	補 厚生労働省科学研究費補助金
新規の癌抗原CD147を標的とする適応免疫最適化と尿路性器腫瘍での応用展開	那須 保友	泌尿器科	4,680	補 文部科学省科学研究費補助金
膀胱再生を目指した排尿平滑筋幹細胞の創出とその応用	渡辺 豊彦	泌尿器科	1,170	補 文部科学省学術研究助成基金助成金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
次世代シーケンサーを用いた尿路性器感染症の病態解析に関する研究	和田 耕一郎	泌尿器科	1,950	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
再発性尿路感染症に対する乳酸菌陰坐剤の有効性に関する基礎・臨床的エビデンスの構築	石井 亜矢乃	総合患者支援センター	1,040	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
制限増殖型アデノウイルスを用いた次世代遺伝子治療の基盤研究	小林 泰之	低侵襲治療センター	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
新規のチェックポイント阻害薬による腫瘍内免疫疲弊解除機構の解明	定平 卓也	泌尿器科	1,430	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
REIC/Dkk-3遺伝子による前立腺細胞増殖制御機構に関する研究	高本 篤	泌尿器科	1,300	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
水素ガス、ヘリウムガス吸入の腎虚血再灌流における腎保護作用	丸山 雄樹	泌尿器科	1,300	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
前立腺癌幹細胞を標的とした新規遺伝子治療戦略の確立	黄 鵬	産学官連携センター	1,560	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
腸管スキャフォールドとコラーゲン結合型成長因子を用いた拍動性グラフトの創成	笠原 真悟	心臓血管外科	1,690	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
菅空内DLCコーティングによる細径人工血管開存向上の試み	村岡 玄哉	心臓血管外科	1,300	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
ポータブル心臓灌流装置を用いた心停止ドナーからの心臓移植の臨床応用	末澤 孝徳	心臓血管外科	1,040	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
フォンタン術後の臓器うつ血障害軽減に向けたプレコンディショニング戦略の検証	逢坂 大樹	心臓血管外科	530	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
病態解明を目指したリンパ浮腫における慢性炎症メカニズムの研究	木股 敬裕	形成外科	650	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
幹細胞エクソソームと人工生体材料を用いた乳房再建における被膜拘縮制御法の開発	渡部 聡子	形成外科	1,560	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
乳房再建の治療アウトカムを評価する-患者主観的評価尺度BREAST-Qを用いて-	雑賀 美帆	形成外科	650	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
乳房再建が予後に及ぼす影響の検討	向井 裕子	形成外科	1,820	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
上肢浮腫における浅部・深部リンパ管解剖研究とその障害機序の解明	越宗 靖二郎	形成外科	1,170	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
生殖機能獲得を目指した同性・異性間子宮卵巣同時移植の研究	難波 祐三郎	ジェンダーセンター	2,080	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
タンパク結合型ICGを用いたリンパ輸送能の定量的評価	山田 潔	形成外科	2,210	補 (公財)岡山医学振興会岡山医学振興会教育助成金
Induced membrane法を用いた遊離軟骨移植の基礎的研究	妹尾 貴矢	形成外科	2,340	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
頭頸部癌全国症例登録システムの構築と臓器温存	木股 敬裕	形成外科	260	委 日本医療研究開発機構研究開発費
乳房再建におけるアウトカム指標の確立と科学的根拠に基づいた患者意思決定支援	木股 敬裕	形成外科	9,099	委 日本医療研究開発機構研究開発費
手術室映像システムを活用した皮膚外科動画アプリケーションの開発	山崎 修	皮膚科	200	補 (公財)岡山医学振興会岡山医学振興会教育助成金
種痘様水疱症における紫外線曝露による皮疹形成機序の解明	平井 陽至	皮膚科	1,300	補 文部科学省学術研究助成基金助成金
ステロイド治療抵抗性の天疱瘡患者を対象としたリゾキシマブの医師主導治験	平井 陽至	皮膚科	500	委 日本医療研究開発機構研究開発費
種痘様水疱症の重症マーカーの検討	三宅 智子	皮膚科	520	補 文部科学省学術研究助成基金助成金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)		補助元又は委託元
疾患特異的iPS細胞由来網膜色素上皮細胞を用いたCINCA症候群の病態解明	平野 雅幸	眼科	1,430	補	文部科学省科学研究費補助金
アクアポリンを標的とした黄斑浮腫の新規治療戦略	白神 史雄	眼科	1,430	補	文部科学省科学研究費補助金
外的ストレスによるiPS由来網膜色素上皮細胞障害の機構解明	木村 修平	眼科	1,820	補	文部科学省科学研究費補助金
ゲノム編集技術を用いた網膜における長寿遺伝子の機能解明:加齢黄斑変性の予防戦略	森實 祐基	眼科	1,430	補	文部科学省科学研究費補助金
難治性聴覚障害に関する調査研究	西崎 和則	耳鼻咽喉科	500	補	厚生労働省科学研究費補助金
プロダクティブ・エイジング(生産的高齢化)社会の実現に向けた難聴者への補聴介入ー遂行機能と社会活動性に注目した検討	西崎 和則	耳鼻咽喉科	500	委	日本医療研究開発機構研究開発費
中枢神経系疾患における神経新生とうつ症状:細胞移植、電気刺激、リハビリによる治療	伊達 勲	脳神経外科	5,980	補	文部科学省科学研究費補助金
免疫チェックポイント阻害薬と抗VEGF抗体との併用効果について検証	杉生 憲志	IVRセンター	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
悪性脳腫瘍に対する分子標的薬と遺伝子治療併用の新展開	黒住 和彦	脳神経外科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
脳梗塞におけるうつ症状と神経新生	安原 隆雄	脳神経外科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
くも膜下出血後early brain injuryに対する電気生理学的解析	菱川 朋人	脳神経外科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
生体脳に元来備わる神経再生機構の活性化法:電気刺激を用いて	亀田 雅博	脳神経外科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
マウス脳腫瘍モデルのin vivo 環境での継代による、腫瘍溶解性ウイルスの開発	藤井 謙太郎	脳神経外科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
HMGB1蛋白はもやもや病手術モデルにおいて血流改善効果をもたらすか?	平松 匡文	脳神経外科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
特発性正常圧水頭症の診療ガイドライン作成に関する研究	伊達 勲	脳神経外科	300	補	厚生労働省科学研究費補助金
遺伝子治療製品「Ad-SGE-REIC」の再発悪性神経膠腫対象第I/IIa 相試験	伊達 勲	脳神経外科	20,150	委	日本医療研究開発機構研究開発費
敗血症治療の基礎的臨床研究とコンパニオン診断法開発	森松 博史	麻酔科蘇生科	65,000	委	日本医療研究開発機構研究開発費
虚血後治療としての吸入麻酔薬が永久中大脳動脈閉塞ラットの神経学的予後に与える影響	谷西 秀紀	麻酔科蘇生科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
大動物敗血症モデルを用いた敗血症性腎傷害発生・進展メカニズムの解明	小坂 順子	麻酔科蘇生科	910	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
選択的Neuregulin1阻害による化学療法誘発性末梢神経障害の治療法の開発	松岡 義和	集中治療部	910	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
周術期酸素療法における高酸素血症に関する研究	鈴木 聡	集中治療部	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ミクログリアに発現する温度感受性分子の探索と同定	西本 れい	集中治療部	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
グルタミン酸トランスポーターを介した下行性疼痛抑制系のパラドクスの解明	小野 大輔	集中治療部	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
小児リウマチ性疾患の活動性浄化に有用なバイオマーカーの検索	八代 将登	小児科	520	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
思春期健診およびモバイルテクノロジーによる思春期のヘルスプロモーション	岡田 あゆみ	小児科	390	委	日本医療研究開発機構研究開発費

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
ウイルス性重症呼吸器感染症に係る診断・治療法の研究	八代 将登	小児科	195	委	日本医療研究開発機構研究開発費
稀少てんかんに関する調査研究	小林 勝弘	小児神経科	300	補	厚生労働省科学研究費補助金
ヒト脳発振現象の直接記録	小林 勝弘	小児神経科	3,900	補	文部科学省科学研究費補助金
代謝物質分析によるけいれん重積型脳症の発症予測因子・重症化因子の検討	秋山 倫之	小児神経科	780	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
難治性てんかんにおける頭皮上、頭蓋内脳波の解析原因不明の小児神経疾患における尿中メタボローム解析	秋山 麻理	小児神経科	1,600	補	(公財)てんかん治療研究振興財団研究助成
胎生期プログラミングによるメタボリック症候群発症ハイリスク群バイオマーカーの検討	増山 寿	産科婦人科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
子宮内膜癌に対する革新的新規治療戦略の構築	中村 圭一郎	産科婦人科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
リアルタイム連続血糖モニターを用いた糖代謝異常妊婦の分娩中の血糖管理方法の検討	牧 尉太	周産母子センター	780	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
周産期緊急搬送システム“iPicss”を用いた周産期搬送連携体制の構築事業	牧 尉太	周産母子センター	3,980	補	岡山県地域医療介護総合確保基金事業補助金
高磁場オープンMRIを用いた安全かつ高精度な新しい針生検法:前向き第Ⅰ相臨床試験	松井 裕輔	放射線科	260	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
CTガイド下針穿刺ロボットを用いた3次元穿刺技術の開発	櫻井 淳	新医療研究開発センター	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
高分子多糖類を使用した新規血管内塞栓材料の開発	宇賀 麻由	卒後臨床研究センター(医)	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
人工知能を用いた腎腫瘍画像診断支援システムの開発	田中 高志	放射線科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
遠隔操作型針穿刺ロボットを用いたCT透視ガイド下生検の臨床試験(FIH試験)	平木 隆夫	放射線科	2,340	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
がんの低侵襲治療を可能にする針穿刺ロボット(Zerobot)の改良:製品化に向けた安全性向上のための機能開発	平木 隆夫	放射線科	14,000	委	岡山県特別電源所在兼科学技術振興事業に係る委託研究事業における委託料
水素豊富生理食塩水の腹腔内投与による術後イレウスの予防	中尾 篤典	救命救急科	2,210	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
水素吸入によるクラッシュ症候群に対する革新的治療の開発	湯本 哲也	救命救急科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
高齢者の救急・集中治療に対してフレイルが及ぼす影響:多施設共同研究	内藤 宏道	救命救急科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
Rothia mucilaginosa感染症の病因解明と感染コントロール法の確立	高柴 正悟	歯周科	260	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
越境性大気中PM2.5結合ヒトアルブミンの生体影響とその予防法の開発	高柴 正悟	歯周科	100	補	文部科学省科学研究費補助金
幹細胞ニッチの制御を目指したインテグリンペプチド療法の開発	山本 直史	歯周科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
抗炎症性低分子化合物terreinおよびその類縁体の歯内歯周疾患治療への応用	大森 一弘	歯周科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
歯周病細菌が産生するプロテアーゼによる歯周組織破壊機構の解明	大森 一弘	歯周科	50	補	文部科学省科学研究費補助金
Inflamm-agingを中心とした歯周病,サルコペニア,糖尿病の病態解明	小林 寛也	歯周科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
酸化ストレスが歯肉上皮タイトジャンクションに与える影響:歯周病発症予防を目指して	高知 信介	歯周科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)		補助元又は委託元
歯周病細菌Aggregatibacter actinomycetemcomitansによる感染性心内膜炎の発症に、細菌のRNAシヤベロンHfqによる病原因子発現制御機構が与える影響	平井 公人	歯周科	350	補	(公財)両備糧園記念財団研究助成
iPS干渉法を応用した歯胚発生メカニズムの理解と歯の再生技術への応用	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	8,320	補	文部科学省科学研究費補助金
変形性関節症の発症予防を目指したWISP遺伝子の機能解析	前田 あずさ	クラウンブリッジ補綴科	2,600	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ステムセルエイジングの制御に向けた間葉系幹細胞未分化性維持機構の解明	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	3,770	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
慢性腎臓病感染症発症における口腔内細菌叢からの理解	小山 絵理	クラウンブリッジ補綴科	2,080	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
間葉系幹細胞の機能低下から見た歯周病やインプラント周囲炎発症の新規理解と対策	秋山 謙太郎	クラウンブリッジ補綴科	6,500	補	文部科学省科学研究費補助金
BMP-2含有人工骨膜の難治性骨疾患・骨癒合不全治療への応用	大野 彩	新医療研究開発センター	2,340	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
顎関節MRIによる関節円板転位症例の長期予後評価と新規リスク因子の解明	三木 春奈	クラウンブリッジ補綴科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
エピジェネティクス的変化を利用した新しい骨量維持型骨造成技術の開発	吉岡 裕也	クラウンブリッジ補綴科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
病的歯槽骨吸収の原因遺伝子およびその遺伝子多型の同定	中川 晋輔	クラウンブリッジ補綴科	1,300	補	文部科学省科学研究費補助金
BMP-2の環境選択的骨誘導/抑制メカニズムの解明・応用に基づく骨再生療法の開発	大野 充昭	クラウンブリッジ補綴科	4,420	補	文部科学省科学研究費補助金
次世代歯周軟組織再生療法としての角化上皮粘膜誘導制御	前川 賢治	クラウンブリッジ補綴科	2,730	補	文部科学省科学研究費補助金
16SrRNA解析を応用した高齢者の低栄養起因口腔・腸内細菌叢の網羅的探索	水口 真実	クラウンブリッジ補綴科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
大腸菌発現系由来rhBMP-2含有β-TCP製人工骨を用いた再生療法の開発	縄稚 久美子	クラウンブリッジ補綴科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
要介護高齢者の口腔インプラント予後評価と上部構造維持様式変更の有効性	黒崎 陽子	クラウンブリッジ補綴科	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要介護高齢者の尊厳を最後まで守る多職種連携口腔栄養サービスの推進事業	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	3,045	委	岡山県受託事業
ベトナム北部有名医療系大学との先端歯学研究交流事業	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	1,293	補	科学技術振興機構平成30年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業
口腔器官の再構築から器官の発生・再生の統一原理の解明	大野 充昭	クラウンブリッジ補綴科	500	補	文部科学省国立大学法人機能強化促進補助金
健康長寿社会を担う歯科医学教育改革ー死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	25,636	補	文部科学省大学改革推進等補助金
咀嚼運動による舌根部オーラル・フレイル回避効果に関する基礎研究	皆木 省吾	咬合・義歯補綴科	2,600	補	文部科学省科学研究費補助金
光重合型架橋性ビニルエステルを用いた新規多孔型吸収性骨補填材の開発	原 哲也	咬合・義歯補綴科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
蛍光タンパクを用いた革新的カップリング・モノマー可視化技術の開発	西川 悟郎	咬合・義歯補綴科	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
睡眠時無呼吸症候群の新たな治療法としての日中クレンジング抑制の検討	川上 滋央	咬合・義歯補綴科	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
メタルフリー修復に対する長鎖シランカップリングを用いた新しい接着システム	丸尾 幸憲	咬合・義歯補綴科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
群化放電に着目した新たな筋機能異常評価システムの開発	前田 直人	咬合・義歯補綴科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)		補助元又は委託元
癌骨破壊病変の癌関連線維芽細胞とマスト細胞との相互作用による骨吸収機構の解析	佐々木 朗	口腔外科(病態系)	3,900	補	文部科学省科学研究費補助金
Semaphorin 4Dが口腔癌骨浸潤に果たす役割とその発現制御機構	伊原木 聡一郎	口腔外科(病態系)	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
Angiogeninの活性阻害剤N65828による口腔癌分子標的治療への展開	岸本晃治	口腔外科(病態系)	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
口腔癌の骨浸潤・骨転移において神経ペプチドCGRPが果たす役割と骨破壊制御機構	吉岡徳枝	口腔外科(病態系)	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
知覚神経におけるHMGB1シグナルを標的とした新規口腔癌骨破壊病変治療の開拓	奥井達雄	口腔外科(病態系)	2,080	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
2型糖尿病薬メホルミンによる腫瘍内制御性T細胞の機能調節と抗腫瘍効果の解析	國定勇希	口腔外科(病態系)	2,210	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
CCN2とVASH1による新たな内軟骨性骨化調節メカニズムの解明	村瀬 友里香	口腔外科(病態系)	1,300	補	文部科学省科学研究費補助金
ニコチンによる口腔癌リンパ節転移の促進機構の解明とその阻害効果の検討	伊原木 聡一郎	口腔外科(病態系)	300	補	(公財)ウエスコ学術振興財団学術研究費助成事業
癌性骨痛の分子メカニズムの解析	奥井 達雄	口腔外科(病態系)	300	補	(公財)川崎医学・医療福祉学振興会教育研究助成事業
過分極活性化環状ヌクレオチド依存性チャネル阻害薬の疼痛制御機構の解明	宮脇 卓也	歯科麻酔科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体を介した麻酔薬の抗炎症作用の解明	若杉 優花	歯科麻酔科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
神経障害性疼痛モデルに対する持続的末梢神経ブロック注射の効果と作用機序について	川瀬 明子	歯科麻酔科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
がん化学療法中の好中球減少性発熱と歯内・歯周感染の関連の実証および治療効果の発信	曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	1,950	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
食道癌患者の周術期口腔管理が予後に与える影響～感染管理と咀嚼機能確保の観点から～	山中 玲子	医療支援歯科治療部	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ラット脳内自己刺激行動を用いた意欲の神経回路の探索	千堂 年昭	薬剤部	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
慢性骨髄性白血病再発防止を目指したALDH1A1阻害剤による治療戦略	八木 健太	薬剤部	530	補	文部科学省科学研究費補助金
GABA神経系に着目したせん妄発現メカニズムの解明	牛尾 聡一郎	薬剤部	530	補	文部科学省科学研究費補助金
地域医療ネットワークを活用した病院薬局薬剤師の連携・教育プログラム構築	錦織 淳美	薬剤部	410	補	文部科学省科学研究費補助金
大規模医療データベースを用いた不育症に対するプレドニゾロンの有効性に関する研究	坂口 加奈	薬剤部	530	補	文部科学省科学研究費補助金
脱カプセルしたタクロリムス徐放製剤の適正使用に向けた製剤学的研究	金 聖暎	薬剤部	390	補	文部科学省科学研究費補助金
膵癌におけるOPGの発現機構解明と発症リスクマーカーとしての有用性	神崎 浩孝	薬剤部	530	補	文部科学省科学研究費補助金
進行性肝臓癌におけるソラフェニブの副作用発現に関連した遺伝子多型マーカーの探索	槇田 崇志	薬剤部	530	補	文部科学省科学研究費補助金
がん化学療法により誘発される不安症状発現機序としての「ストレス脆弱性」形成メカニズムの解明および治療薬開発への応用	北村 佳久	薬剤部	350	補	(公財)両備櫻園記念財団研究助成
日本語が話せない外国籍患者に対する症状モニタリング評価アプリの開発	東恩納 司	薬剤部	729	補	(公財)政策医療振興財団研究助成

小計24件

金額合計 592,906 千円

合計198件

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Oka K, Hanayama Y, Sato A, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical Characteristics of Febrile Outpatients : Possible Involvement of Thyroid Dysfunction in Febrile Tachycardia.	Acta Med Okayama. 2018 Oct;72 (5) :447-456	Original Article
2	Harada K, Hanayama Y, Yasuda M, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical relevance of low androgen to gastroesophageal reflux symptoms.	Endocr J. 2018 Oct;65 (10) :1039-1047	Original Article
3	Nakano Y, Oka K, Horiguchi S, et al.	総合内科・総合診療科	静脈血栓症に類似したRS3PE症候群 (RS3PE syndrome mimicking venous thrombosis) (英語) (原著論文/症例報告)	日本病院総合診療医学会雑誌. 2018 May;14 (3) :223-224	Case report
4	Yasuda M, Iwamuro M, Kimura K, et al.	総合内科・総合診療科	Unilateral Exophthalmos due to Lymphomatous Involvement.	Intern Med. 2018 May;57 (9) :1335	Case report
5	Fujisawa S, Otsuka F.	内分泌センター	Isolated Follicle-stimulating Hormone Deficiency Coincidentally Diagnosed by Hematospermia.	Intern Med. 2018 Jun;57 (12) :1799	Case report
6	Iwamuro M, Hasegawa K, Hanayama Y, et al.	総合内科・総合診療科	Enterovaginal and colovesical fistulas as late complications of pelvic radiotherapy.	J Gen Fam Med. 2018 Jun;19 (5) :166-169	Case report
7	Nishimura Y, Otsuka F.	総合内科・総合診療科	Photophobia in a Patient with Hashimoto's Thyroiditis.	Intern Med. 2018 Oct;57 (19) :2919-2920	Case report
8	Oka K, Nakano Y, Sazumi Y, et al.	総合内科・総合診療科	Clival Osteomyelitis with Cavernous Sinus Thrombosis Due to Fusobacterium nucleatum and Campylobacter rectus Induced by Tooth Extraction.	Intern Med. 2018 Nov;57 (22) :3325-3328	Case report
9	Oka K, Shien T, Otsuka F	総合内科・総合診療科	Thyroid follicular carcinoma in a teenager: A case report.	J Gen Fam Med. 2018 Jun;19 (5) :170-172	Case report
10	Nishimura Y, Yasuda M, Ocho K, et al.	総合内科・総合診療科	Severe Gastritis after Administration of Nivolumab and Ipilimumab.	Case Rep Oncol. 2018 Aug;11 (2) :549-556	Case report
11	Sugihara Y, Harada K, Kato R, et al.	総合内科・総合診療科	Ten Initial Cases of Peroral Endoscopic Myotomy for Treatment of Esophageal Motility Disorders at Okayama University Hospital.	Acta Med Okayama. 2018 Apr;72 (2) :99-104	Original Article
12	Sugihara Y, Hiraoka S, Fujii N, et al.	総合内科・総合診療科	Villous atrophy in the terminal ileum is a specific endoscopic finding correlated with histological evidence and poor prognosis in acute graft-versus-host disease after allo-hematopoietic stem cell transplantation.	BMC Gastroenterol. 2018 Jul;18 (1) :111	Original Article
13	Oka K, Yasuda M, Shien T, et al.	総合内科・総合診療科	A marked goiter involved in Marine-Lenhart syndrome.	J Gen Fam Med. 2018 Nov;20 (1) :37-38	Case report
14	Harada K, Fujikawa T.	総合内科・総合診療科	Intracranial Calcification Due to Hypoparathyroidism.	Am J Med. 2018 Jun;131 (6) :e253-e254	Case report
15	Harada K, Ishikawa Y, Fujiwara H, et al.	総合内科・総合診療科	Female paraurethral leiomyoma successfully excised through a vaginal approach: A case report.	J Obstet Gynaecol Res. 2018 Jun;44 (6) :1174-1176	Case report

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Harada K, Fujikawa T.	総合内科・総合診療科	Giant adenomatous thyroid nodule compressing the trachea.	J Gen Fam Med. 2018 Aug;19 (6) :219-220	Case report
17	Yamamoto A, Meguri Y, Fukuda A, et al.	総合内科・総合診療科	A case of reversible cerebral vasoconstriction syndrome developing during treatment of adult aplastic anemia.	Ann Hematol. 2019 Feb;98 (2) :511-513	Case report
18	Uchida D, Kato H, Saragai Y, et al.	消化器内科	Usefulness of a Cannula with a Flexible Tip (Swing Tip) for Managing Severe Biliary Stricture.	Can J Gastroenterol Hepatol. 2018 Dec;7125714 (オンライン ン)	Original Article
19	Matsumoto K, Kato H, Horiguchi S, et al.	消化器内科	Efficacy and safety of chemotherapy after endoscopic double stenting for malignant duodenal and biliary obstructions in patients with advanced pancreatic cancer: a single-institution retrospective analysis.	BMC Gastroenterol. 2018 Oct;18 (1) :157	Original Article
20	Hirai M, Yamasaki Y, Harada K, et al.	消化器内科	Underwater endoscopic mucosal resection for anal canal neoplasia in a patient with human immunodeficiency virus infection.	Ann Gastroenterol. 2018 Jul;31 (4) :522	Others
21	Matsumi A, Kato H, Saragai Y, et al.	消化器内科	Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy Is Effective for Repeated Recurrent Cholangitis after Surgery: Two Case Reports.	Case Rep Gastrointest Med. 2018 Jun;7201967 (オンライン)	Case report
22	Uchida D, Kato H, Saragai Y, et al.	消化器内科	Indications for Endoscopic Ultrasound-Guided Pancreatic Drainage: For Benign or Malignant Cases?	Can J Gastroenterol Hepatol. 2018 Jun;8216109	Original Article
23	Sugihara Y, Harada K, Kato R, et al.	消化器内科	Ten-Initial Cases of Peroral Endoscopic Myotomy for Treatment of Esophageal Motility Disorders at Okayama University Hospital.	Acta Med Okayama. 2018 Apr;72 (2) :99-104	Original Article
24	Yamasaki Y, Harada K, Okada H.	消化器内科	Traction-assisted endoscopic submucosal dissection for a giant rectal tumor: Multiple clip-and- threads technique.	Dig Endosc. 2018 Sep;30 (5) :697-699	Others
25	Yamasaki Y, Takeuchi Y, Iwatsubo T, et al.	消化器内科	Line-assisted complete closure for a large mucosal defect after colorectal endoscopic submucosal dissection decreased post- electrocoagulation syndrome.	Dig Endosc. 2018 Sep;30 (5) :633-641	Original Article
26	Yamasaki Y, Takeuchi Y, Uedo N, et al.	消化器内科	Efficacy of traction-assisted colorectal endoscopic submucosal dissection using a clip-and-thread technique: A prospective randomized study.	Dig Endosc. 2018 Jul;30 (4) :467-476	Original Article
27	Uchida D, Kato H, Okada H.	消化器内科	Re-intervention with endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy for unresectable hilar biliary drainage using a multipath occlusion balloon.	Endoscopy. 2018 Apr;50 (4) :450-452	Case report
28	Uchida D, Kawamoto H, Kato H, et al.	消化器内科	The intra-conduit release method is useful for avoiding migration of metallic stents during EUS-guided hepaticogastrostomy (with video).	J Med Ultrason. 2018 Jul;45 (3) :399-403	Original Article
29	Kiura K, Yoh K, Katakami N, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Osimertinib in patients with epidermal growth factor receptor T790M advanced non-small cell lung cancer selected using cytology samples.	Cancer Sci. 2018 Apr;109 (4) :1177-1184	Original Article

小計14件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
30	Kiura K, Imamura F, Kagamu H, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Phase 3 study of ceritinib vs chemotherapy in ALK-rearranged NSCLC patients previously treated with chemotherapy and crizotinib (ASCEND-5): Japanese subset.	Jpn J Clin Oncol. 2018 Apr;48 (4):367-375	Original Article
31	Kubo T, Ninomiya T, Hotta K, et al.	腫瘍センター	Study Protocol: Phase-Ib Trial of Nivolumab Combined With Metformin for Refractory/Recurrent Solid Tumors.	Clin Lung Cancer. 2018 Nov;19 (6):e861-e864	Original Article
32	Hotta K, Ninomiya K, Ichihara E, et al.	新医療研究開発センター	Significance of re-biopsy of histological tumor samples in advanced non-small-cell lung cancer in clinical practice.	Int J Clin Oncol. 2019 Jan;24 (1):41-45	Original Article
33	Ichihara E, Hotta K, Kubo T, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Clinical significance of repeat rebiopsy in detecting the EGFR T790M secondary mutation in patients with non-small cell lung cancer.	Oncotarget. 2018 Jun;9 (50):29525-29531	Original Article
34	Meguri Y, Kambara Y, Yamamoto A, et al.	新医療研究開発センター	Development of unexpected severe thrombocytopenia just after the initiation of Lenalidomide: possible involvement of immunologic mechanism.	International journal of myeloma 2018 Aug;8 (1):1-3	Case report
35	Nakamura M, Fujii N, Shimizu K, et al.	輸血部	Long-term outcomes in patients treated in the intensive care unit after hematopoietic stem cell transplantation.	Int J Hematol. 2018 Dec;108 (6):622-629	Original Article
36	Asada N.	血液・腫瘍内科	Regulation of Malignant Hematopoiesis by Bone Marrow Microenvironment.	Front Oncol. 2018 Apr;8:119	Review
37	Watanabe H, Sada KE, Matsumoto Y, et al.	腎・免疫・内分泌代謝内科	Association Between Reappearance of Myeloperoxidase-Antineutrophil Cytoplasmic Antibody and Relapse in Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis: Subgroup Analysis of Nationwide Prospective Cohort Studies.	Arthritis Rheumatol. 2018 Oct;70 (10):1626-1633	Original Article
38	Mise K, Imamura M, Yamaguchi S, et al.	腎・免疫・内分泌代謝内科	Identification of Novel Urinary Biomarkers for Predicting Renal Prognosis in Patients With Type 2 Diabetes by Glycan Profiling in a Multicenter Prospective Cohort Study: U-CARE Study 1.	Diabetes Care. 2018 Aug;41 (8):1765-1775	Original Article
39	Umebayashi R, Uchida HA, Kakio Y, et al.	腎・免疫・内分泌代謝内科	Cilostazol Attenuates Angiotensin II-Induced Abdominal Aortic Aneurysms but Not Atherosclerosis in Apolipoprotein E-Deficient Mice.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2018 Apr;38 (4):903-912	Original Article
40	Takeuchi H, Uchida HA, Kakio Y, et al.	腎・免疫・内分泌代謝内科	The Prevalence of Frailty and its Associated Factors in Japanese Hemodialysis Patients.	Aging Dis. 2018 Apr;9 (2):192-207	Original Article
41	Akagi S, Nakamura K, Sarashina T, et al.	循環器内科	Progression of pulmonary artery dilatation in patients with pulmonary hypertension coexisting with a pulmonary artery aneurysm.	J Cardiol. 2018 May;71 (5):517-522	Original Article
42	Miyoshi A, Nakamura Y, Kazatani Y, et al.	循環器内科	The feasibility of substituting left atrial wall strain for flow velocity of left atrial appendage.	Acta Cardiol. 2018 Apr;73 (2):125-130	Original Article
43	Morihara R, Yamashita T, Liu X, et al.	脳神経内科	Protective effect of a novel sigma-1 receptor agonist is associated with reduced endoplasmic reticulum stress in stroke male mice.	J Neurosci Res. 2018 Oct;96 (10):1707-1716	Original Article
44	Ohta Y, Nomura E, Shang J, et al.	脳神経内科	Enhanced oxidative stress and the treatment by edaravone in mice model of amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurosci Res. 2019 May;97 (5):607-619	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
45	Yagi T, Takagi K, Yoshida R, et al.	肝・胆・膵外科	New Left Lobe Transplantation Procedure with Caval Reconstruction Using an Inverted Composite Graft for Chronic Budd-Chiari Syndrome in Living-Donor Liver Transplantation-A Case Report.	Transplant Proc. 2018 May;50 (4) :1192-1195	Original Article
46	Kuwada K, Kagawa S, Yoshida R, et al.	消化管外科	The epithelial-to-mesenchymal transition induced by tumor-associated macrophages confers chemoresistance in peritoneally disseminated pancreatic cancer.	J Exp Clin Cancer Res. 2018 Dec;37 (1) :307	Original Article
47	Yagi T, Takagi K, Umeda Y, et al.	肝・胆・膵外科	Prognostic Factors for Pediatric Living Donor Liver Transplantation: Impact of Zero-mortality Transplant for Cholestatic Diseases.	Acta Med Okayama. 2018 Dec;72 (6) :567-576	Original Article
48	Kuroda S, Choda Y, Otsuka S, et al.	新医療研究開発センター	Multicenter retrospective study to evaluate the efficacy and safety of the double-flap technique as antireflux esophagogastrostomy after proximal gastrectomy (rD-FLAP Study).	Ann Gastroenterol Surg. 2018 Oct;3 (1) :96-103	Original Article
49	Kikuchi S, Kubota T, Kuroda S, et al.	低侵襲治療センター	Endoscopic Ultrasound-Guided Transgastric Drainage of an IntraAbdominal Abscess following Gastrectomy.	Clin Endosc. 2019 Feb (オンライン)	Case report
50	Kuwada K, Kuroda S, Kikuchi S, et al.	消化管外科	Sarcopenia and Comorbidity in Gastric Cancer Surgery as a Useful Combined Factor to Predict Eventual Death from Other Causes.	Ann Surg Oncol. 2018 May;25 (5) :1160-1166	Original Article
51	Shirakawa Y, Noma K, Maeda N, et al.	消化管外科	Clinical characteristics and management of gastric tube cancer after esophagectomy.	Esophagus. 2018 Jul;15 (3) :180-189	Original Article
52	Kikuchi S, Kuroda S, Nishizaki M, et al.	低侵襲治療センター	Comparison of the Effects of Epidural Analgesia and Patient-controlled Intravenous Analgesia on Postoperative Pain Relief and Recovery After Laparoscopic Gastrectomy for Gastric Cancer.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2018 Dec (オンライン)	Original Article
53	Toyooka S, Okumura N, Nakamura H, et al.	呼吸器外科	A Multicenter Randomized Controlled Study of Paclitaxel plus Carboplatin versus Oral Uracil-Tegafur as the Adjuvant Chemotherapy in Resected Non-Small Cell Lung Cancer.	J Thorac Oncol. 2018 May;13 (5) :699-706	Original Article
54	Sugimoto S, Miyoshi K, Kurosaki T, et al.	呼吸器外科	Favorable survival in lung transplant recipients on preoperative low-dose, as compared to high-dose corticosteroids, after hematopoietic stem cell transplantation.	Int J Hematol. 2018 Jun;107 (6) :696-702	Original Article
55	Otani S, Kurosaki T, Sugimoto S, et al.	呼吸器外科	Unilateral lung transplantation using intact bilateral upper lobes.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Jul;156 (1) :e35-e38	Original Article
56	Sugimoto S, Yamane M, Otani S, et al.	呼吸器外科	Airway complications have a greater impact on the outcomes of living-donor lobar lung transplantation recipients than cadaveric lung transplantation recipients.	Surg Today. 2018 Sep;48 (9) :848-855	Original Article
57	Sugimoto S.	呼吸器外科	Can pretransplant computed-tomographic assessment predict outcomes after lung transplantation?	J Thorac Dis. 2018 Oct;10 (10) :5652-5654	Original Article
58	Shien T.	乳腺内分泌外科	The eligibility of primary tumor resection for de novo stage IV breast cancer patients.	Trans Cancer Res. 2018 Jun;7 (S5) :604-607	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
59	Iwamoto T, Taira N, Fujisawa T, et al.	新医療研究開発センター	Hormonal Therapy Resistant Estrogen-receptor Positive Metastatic Breast Cancer Cohort (HORSE-BC) Study : Current Status of Treatment Selection in Japan.	Acta Med Okayama. 2018 Aug ; 72 (4) : 369-374	Original Article
60	Mitsui Y, Sadahira T, Araki M, et al.	泌尿器科	The assessment of renal cortex and parenchymal volume using automated CT volumetry for predicting renal function after donor nephrectomy.	Clin Exp Nephrol. 2018 Apr;22 (2) :453-458	Original Article
61	Sadahira T, Wada K, Tanimoto R, et al.	泌尿器科	A Reddish Submucosal Tumor after Nephrectomy.	Intern Med. 2018 Jun;57 (12) :1793-1794	Case report
62	Takamoto A, Tanimoto R, Bekku K, et al.	泌尿器科	Oncological impact of neoadjuvant hormonal therapy on permanent iodine-125 seed brachytherapy in patients with low- and intermediate-risk prostate cancer.	Int J Urol. 2018 May;25 (5) :507-512	Original Article
63	Maruyama Y, Sadahira S, Mitsui Y, et al.	泌尿器科	Acute Inflammatory Syndrome Paradoxically Induced by De Novo Purine Inhibitors Synthesis Before Renal Transplantation: A Case Report and Review of the Literature.	Transplant Proc. 2018 Apr;50 (3) :895-897	Original Article
64	Maruyama Y, Sadahira T, Mitsui Y, et al.	泌尿器科	Red nodular melanoma of the penile foreskin: A case report and literature review.	Mol Clin Oncol. 2018 Oct;9 (4) :449-452	Case report
65	Maruyama Y, Sadahira T, Mitsui Y, et al.	泌尿器科	Prognostic impact of bleomycin pulmonary toxicity on the outcomes of patients with germ cell tumors.	Med Oncol. 2018 Apr ; 35 (6) :80	Original Article
66	Tanimoto R, Saika T, Ebara S, et al.	泌尿器科	Prospective randomized controlled trial of postoperative early intravesical chemotherapy with pirarubicin (THP) for solitary non- muscle invasive bladder cancer comparing single and two-time instillation.	World J Urol. 2018 Jun;36 (6) :889-895	Original Article
67	Mitsui Y, Sadahira T, Araki M, et al.	泌尿器科	Clinical impact of abdominal fat distribution measured by 3-D computed tomography volumetry on post-transplant renal function in recipients after living kidney transplantation: a retrospective study.	Clin Exp Nephrol. 2019 Mar;23 (3) :415-424	Original Article
68	Mitsui Y, Sadahira T, Araki M, et al.	泌尿器科	The 3-D Volumetric Measurement Including Resected Specimen for Predicting Renal Function After Robot-assisted Partial Nephrectomy.	Urology. 2019 Mar;125:104-110	Original Article
69	Nishimura S, Wada K, Araki M, et al.	泌尿器科	Use of single-dose perioperative antimicrobial therapy is acceptable in recipients of living-donor renal transplants in the rituximab era.	J Infect Chemother. 2019 Apr;25 (4) :247-252	Original Article
70	Sadahira T, Mitsui Y, Araki M, et al.	泌尿器科	Pelvic magnetic resonance imaging parameters predict urinary incontinence after robot-assisted radical prostatectomy.	Low Urin Tract Symptoms. 2019 May;11 (3) :122-126	Original Article
71	Mitsui Y, Sadahira T, Araki M, et al.	泌尿器科	Loss of psoas major muscle volume during systemic chemotherapy is related to worse prognosis in testicular cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2019 Feb;49 (2) :183-189	Original Article
72	Sadahira T, Wada K.	泌尿器科	Editorial Comment to Occurrence and characterization of carbapenem- resistant Gram-negative bacilli: A collaborative study of antibiotic- resistant bacteria between Indonesia and Japan.	Int J Urol. 2018 Nov;25 (11) :972-973	Original Article

小計14件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
73	Maruyama Y, Sadahira T, Mitsui Y, et al.	泌尿器科	Prognostic impact of bleomycin pulmonary toxicity on the outcomes of patients with germ cell tumors.	Med Oncol. 2018 Apr;35 (6) :80	Original Article
74	Oiwa Y, Watanabe T, Sadahira T, et al.	泌尿器科	Clitoral Blood Flow Changes after Surgery with Tension-Free Vaginal Mesh for Pelvic Organ Prolapse.	Acta Med Okayama. 2019 Feb;73 (1) :21-27	Original Article
75	Senoo T, Tokuyama E, Yamada K, et al.	形成外科	Determination of reference values for normal cranial morphology by using mid-sagittal vector analysis in Japanese children.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2018 May;71 (5) :670-680	Original Article
76	Ota T, Matsumoto H, Yamada K, et al.	形成外科	Nerve Switch for Reducing Synkinesis After Gracilis Muscle Transfer Innervated Via the Masseter Nerve.	J Craniofac Surg. 2019 Jan;30 (1) :e3-e5	Original Article
77	Matsumoto H, Shinaoka A, Ohtsuka A, et al.	形成外科	Detailed Vascular Anatomy and Flap Harvest Technique of the Serratus Anterior/Rib Composite Flap.	Plast Reconstr Surg. 2019 Jan;143 (1) :115-124	Original Article
78	Morizane S, Ouchida M, Sunagawa K, et al.	皮膚科	Analysis of All 34 Exons of the SPINK5 Gene in Japanese Atopic Dermatitis Patients.	Acta Med Okayama. 2018 Jun;72 (3) :275-282	Original Article
79	Morizane S, Nomura H, Tachibana K, et al.	皮膚科	The synergistic activities of the combination of tumour necrosis factor- α , interleukin-17A and interferon- γ in epidermal keratinocytes.	Br J Dermatol. 2018 Aug;179 (2) :496-498	Case report
80	Morizane S, Sugimoto S, Motoki T, et al.	皮膚科	A Case of Psoriasis Complicated by Breast Cancer after Systemic Treatments Including Biologics.	Acta Med Okayama. 2018 Apr;72 (2) :185-187	Case report
81	Morizane S, Kajita A, Mizuno K, et al.	皮膚科	Toll-like receptor signalling induces the expression of serum amyloid A in epidermal keratinocytes and dermal fibroblasts.	Clin Exp Dermatol. 2019 Jan;44 (1) :40-46	Original Article
82	Hirano M, Morizane Y, Kimura S, et al.	眼科	Assessment of Lamellar Macular Hole and Macular Pseudohole With a Combination of En Face and Radial B-scan Optical Coherence Tomography Imaging.	Am J Ophthalmol. 2018 Apr;188:29-40	Original Article
83	Naito T, Yoshikawa K, Namiguchi K, et al.	眼科	Comparison of success rates in eye drop instillation between sitting position and supine position.	PLoS One. 2018 Sep;13 (9) :e0204363 (オンライン)	Original Article
84	Takahashi K, Morizane Y, Hisatomi T, et al.	眼科	The influence of subretinal injection pressure on the microstructure of the monkey retina.	PLoS One. 2018 Dec;13 (12) :e0209996 (オンライン)	Original Article
85	Morizane- Hosokawa M, Morizane Y, Kimura S, et al.	眼科	Impact of Polyp Regression on 2-year Outcomes of Intravitreal Aflibercept Injections: A Treat-and-Extend Regimen for Polypoidal Choroidal Vasculopathy.	Acta Med Okayama. 2018 Aug;72 (4) :379-385	Original Article
86	Hamasaki I, Shibata K, Shimizu T, et al.	眼科	Differences in the Stability and Amount of Postoperative Exodrift with Age after Unilateral Lateral Rectus Muscle Recession and Medial Rectus Muscle Resection of Intermittent Exotropia.	Acta Med Okayama. 2018 Oct;72 (5) :487-492	Original Article
87	Shiode Y, Morizane Y, Takahashi K, et al.	眼科	Embedding of lamellar hole-associated epiretinal proliferation combined with internal limiting membrane inversion for the treatment of lamellar macular hole: a case report.	BMC Ophthalmol. 2018 Sep;18 (1) :257	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
88	Doi S, Kimura S, Morizane Y, et al.	眼科	ADVERSE EFFECT OF MACULAR INTRARETINAL HEMORRHAGE ON THE PROGNOSIS OF SUBMACULAR HEMORRHAGE DUE TO RETINAL ARTERIAL MACROANEURYSM RUPTURE.	Retina. 2019 Jan (オンライン)	Original Article
89	Morizane Y, Morimoto N, Fujiwara A, et al.	眼科	Incidence and causes of visual impairment in Japan: the first nation-wide complete enumeration survey of newly certified visually impaired individuals.	Jpn J Ophthalmol. 2019 Jan;63 (1) :26-33	Original Article
90	Maeda Y, Kariya S, Omichi R, et al.	耳鼻咽喉科	Targeted PCR Array Analysis of Genes in Innate Immunity and Glucocorticoid Signaling Pathways in Mice Cochleae Following Acoustic Trauma.	Otol Neurotol. 2018 Aug;39 (7) :e593-e600	Case report
91	Nishihiro S, Sugiu K, Hishikawa T, et al.	脳神経外科	Outcome of coil embolization for symptomatic unruptured cerebral aneurysms.	Journal of Neuroendovascular Therapy. 2018 Apr;12 (4) :169-174	Original Article
92	Sasaki T, Agari T, Kuwahara K, et al.	脳神経外科	Efficacy of Dural Sealant System for Preventing Brain Shift and Improving Accuracy in Deep Brain Stimulation Surgery.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2018 May;58 (5) :199-205	Original Article
93	Okazaki M, Sasaki T, Yasuhara T, et al.	脳神経外科	Characteristics and prognostic factors of Parkinson's disease patients with abnormal postures subjected to subthalamic nucleus deep brain stimulation.	Parkinsonism Relat Disord. 2018 Dec;57:44-49	Original Article
94	Hiramatsu M, Sugiu K, Yasuhara T, et al.	脳神経外科	Comparison between Spinal Dural Arteriovenous Fistula and Spinal Epidural Arteriovenous Fistula	Journal of Neuroendovascular Therapy 2019. Mar;13 (3) :114-119	Original Article
95	Kimura S, Shabsigh M, Morimatsu H.	周術期管理センター	Traditional approach versus Stewart approach for acid-base disorders: Inconsistent evidence.	SAGE Open Med. 2018 Sep;6:2050312118801255	Original Article
96	Kurita M, Matsuoka Y, Nakatsuka K, et al.	麻酔科蘇生科	Norepinephrine-induced downregulation of GLT-1 mRNA in rat astrocytes.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Sep;504 (1) :103-108	Original Article
97	Shioji N, Kanazawa T, Iwasaki T, et al.	集中治療部	Incidence of Pulmonary Complications with the Prophylactic Use of High-flow Nasal Cannula after Pediatric Cardiac Surgery: Prophylactic HFNC Study Protocol.	Acta Med Okayama. 2018 Apr;72 (2) :193-196	Original Article
98	Kimura S, Iwasaki T, Oe K, et al.	周術期管理センター	High Ionized Calcium Concentration Is Associated With Prolonged Length of Stay in the Intensive Care Unit for Postoperative Pediatric Cardiac Patients.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2018 Aug;32 (4) :1667-1675	Original Article
99	Kuroda K, Wake H, Mori S, et al.	集中治療部	Decrease in Histidine-Rich Glycoprotein as a Novel Biomarker to Predict Sepsis Among Systemic Inflammatory Response Syndrome.	Crit Care Med. 2018 Apr;46 (4) :570-576	Original Article
100	Suzuki S, Mihara Y, Hikasa Y, et al.	集中治療部	Current Ventilator and Oxygen Management during General Anesthesia: A Multicenter, Cross-sectional Observational Study.	Anesthesiology. 2018 Jul;129 (1) :67-76	Original Article
101	Ishida H, Iguchi A, Aoe M, et al.	小児科	Panel-based next-generation sequencing identifies prognostic and actionable genes in childhood acute lymphoblastic leukemia and is suitable for clinical sequencing.	Ann Hematol. 2019 Mar;98 (3) :657-668	Original Article
102	Hatayama K, Nosaka N, Yamada M, et al.	小児科	Combined effect of anti-high-mobility group box-1 monoclonal antibody and peramivir against influenza A virus-induced pneumonia in mice.	J Med Virol. 2019 Mar;91 (3) :361-369	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
103	Kobayashi K, Ohuchi Y, Shibata T, et al.	小児神経科	Detection of fast (40-150Hz) oscillations from the ictal scalp EEG data of myoclonic seizures in pediatric patients.	Brain Dev. 2018 May;40 (5):397-405	Original Article
104	Akiyama T, Kubota T, Ozono K, et al.	小児神経科	Pyridoxal 5'-phosphate and related metabolites in hypophosphatasia: Effects of enzyme replacement therapy.	Mol Genet Metab. 2018 Sep;125 (1-2):174-180	Original Article
105	Shibata T, Kobayashi K.	小児神経科	Epileptic High-frequency Oscillations in Scalp Electroencephalography.	Acta Med Okayama. 2018 Aug;72 (4):325-329	Review
106	Komaki T, Hiraki T, Uka M, et al.	放射線科	A Case of Stent Fracture After Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunt.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2018 Jun;41 (6):976-978	Case report
107	Hiraki T, Matsuno T, Kamegawa T, et al.	放射線科	Robotic Insertion of Various Ablation Needles Under Computed Tomography Guidance: Accuracy in Animal Experiments.	Eur J Radiol. 2018 Aug;105:162-167	Original Article
108	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線部	Short hookwire placement under imaging guidance before thoracic surgery: A review.	Diagn Interv Imaging. 2018 Oct;99 (10):591- 597	Review
109	Hiraki T, Kamegawa T, Matsuno T, et al.	放射線科	Zerobot®: A Remote-controlled Robot for Needle Insertion in CT-guided Interventional Radiology Developed at Okayama University.	Acta Med Okayama. 2018 Dec;72 (6):539-546	Original Article
110	Tanaka T, Inai R, Iguchi T, et al.	放射線科	Dermoid cyst presenting as an intramuscular mass: CT and MRI features.	Diagn Interv Imaging. 2019 Mar;100 (3):195- 196	Case report
111	Aokage T, Tsukahara K, Fukuda Y, et al.	救命救急科	Heat-not-burn cigarettes induce fulminant acute eosinophilic pneumonia requiring extracorporeal membrane oxygenation.	Respir Med Case Rep. 2018 Dec;26:87-90. doi	Case report
112	Kuboki T, Ichikawa T, Baba K, et al.	クラウンブリッジ補綴科	A multi-centered epidemiological study evaluating the validity of the treatment difficulty indices developed by the Japan Prosthodontic Society.	J Prosthodont Res. 2018 Apr;62 (2):162-170	Original Article
113	Ono M, Masaki A, Maeda A, et al.	クラウンブリッジ補綴科	CCN4/WISP1 controls cutaneous wound healing by modulating proliferation, migration and ECM expression in dermal fibroblasts via $\alpha 5 \beta 1$ and TNF α .	Matrix Biol. 2018 Aug;68-69:533-546	Original Article
114	Kurosaki Y, Mino T, Maekawa K, et al.	クラウンブリッジ補綴科	Digital transfer of the subgingival contour and emergence profile of the provisional restoration to the final bone-anchored fixed restoration.	J Prosthodont Res. 2019 Jan;63 (1):125-129	Original Article
115	Kato S, Ekuni D, Kawakami S, et al.	咬合・義歯補綴科	Relationship between severity of periodontitis and masseter muscle activity during waking and sleeping hours.	Arch Oral Biol. 2018 Jun;90:13-18	Original Article
116	Yoshioka Y, Yamachika E, Nakanishi M, et al.	口腔外科 (再建系)	Cathepsin K inhibitor causes changes in crystallinity and crystal structure of newly-formed mandibular bone in rats.	Br J Oral Maxillofac Surg. 2018 Oct;56 (8):732-738	Original Article
117	Okui T, Ibaragi S, Shimo T, et al.	口腔外科 (病態系)	Ameloblastic fibro-odontoma in a nine-year-old boy.	Stomatological Dis Sci 2018 Jul;2 (7):1-5	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
118	Okui T, Ibaragi S, Nakano K, et al.	口腔外科（病態系）	Basal cell adenoma arising in the minor salivary gland of the hard palate.	Journal of Clinical and Diagnostic Research. 2018 Apr;12 (4) :4-5	Case report
119	Maeda S, Andoh T, Onishi R, et al.	歯科麻酔科	Remifentanyl suppresses increase in interleukin-6 mRNA in the brain by inhibiting cyclic AMP synthesis.	J Anesth. 2018 Oct;32 (5) :731-739	Original Article
120	Muro M, Soga Y, Higuchi T, et al.	周術期管理センター	Unusual oral mucosal microbiota after hematopoietic cell transplantation with glycopeptide antibiotics: potential association with pathophysiology of oral mucositis.	Folia Microbiol (Praha). 2018 Sep;63 (5) :587-597	Original Article
121	Higuchi T, Soga Y, Muro M, et al.	周術期管理センター	Replacing zoledronic acid with denosumab is a risk factor for developing osteonecrosis of the jaw.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2018 Jun;125 (6) :547-551	Original Article
122	Kitamura Y, Hongo S, Yamashita Y, et al.	薬剤部	Influence of lipopolysaccharide on diazepam-modified loss of righting reflex duration by pentobarbital treatment in mice.	Eur J Pharmacol. 2019 Jan;842:231-238	Original Article
123	Esumi S, Kitamura Y, Yokota- Kumasaki H, et al.	薬剤部	Effects of Magnesium Oxide on the Serum Duloxetine Concentration and Antidepressant-Like Effects of Duloxetine in Rats.	Biol Pharm Bull. 2018 Nov;41 (11) :1727-1731	Original Article

小計6件

合計123件

- (注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec（オンライン）
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の実施に係わる標準業務手順書 ・ 岡山大学医療系部局における臨床研究審査専門委員会標準業務手順書 ・ 岡山大学医療系部局における研究者主導臨床研究モニタリング標準業務手順書 ・ 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の監査に係わる標準業務手順書 ・ 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の重篤な有害事象及び不具合発生時の標準業務手順書 ・ 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の個人情報等の安全管理に関する標準業務手順書 ・ 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の人体から取得された試料及び情報等の保管に関する標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会内規 ・ 岡山大学医療系部局における利益相反マネジメント委員会標準業務手順書 ・ 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメントポリシー	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6 5 回
・ 研修の主な内容 ・ 医師、歯科医師等の臨床研究を行う者に対する研修会（4 1 回） ・ 臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の従業者に対する研修会（9 回） ・ 臨床研究審査委員会の委員等に対する研修会（1 5 回）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各診療領域における専門医・各学会が認めた認定医の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を研修登録医として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	299 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 文男	総合内科・総合診療科	科長	27 年	
岡田 裕之	消化器内科	科長	35 年	
前田 嘉信	血液・腫瘍内科	科長	26 年	
木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	科長	36 年	
和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長	27 年	
伊藤 浩	循環器内科	科長	36 年	
阿部 康二	脳神経内科	科長	40 年	
藤原 俊義	消化管外科	科長	34 年	
八木 孝仁	肝・胆・膵外科	科長	36 年	
豊岡 伸一	呼吸器外科	科長	25 年	
土井原 博義	乳腺・内分泌外科	科長	36 年	
渡邊 豊彦	泌尿器科	科長	24 年	
笠原 真悟	心臓血管外科 小児心臓血管外科	科長	28 年	
野田 卓男	小児外科	科長	35 年	
尾崎 敏文	整形外科	科長	32 年	
木股 敬裕	形成外科	科長	35 年	
森実 真	皮膚科	科長	19 年	
白神 史雄	眼科	科長	39 年	
西崎 和則	耳鼻咽喉科	科長	40 年	
山田 了士	精神科神経科	科長	36 年	
伊達 勲	脳神経外科	科長	36 年	
森松 博史	麻酔科蘇生科 集中治療部 周術期管理センター	科長 部長 センター長	25 年	
塚原 宏一	小児科	科長	33 年	

	小児血液・腫瘍科			
小林 勝弘	小児神経科	科長	36	年
岩崎 達雄	小児麻酔科	科長	28	年
増山 寿	産科婦人科	科長	32	年
金澤 右	放射線科	科長	38	年
中尾 篤典	救急救命科	科長	26	年
柳井 広之	病理診断科	科長	23	年
鳥井 康弘	総合歯科	科長	37	年
吉山 昌宏	むし歯科	科長	35	年
高柴 正悟	歯周科	科長	31	年
窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	科長	33	年
皆木 省吾	咬合・義歯補綴科	科長	41	年
飯田 征二	口腔外科（再建系）	科長	33	年
佐々木 朗	口腔外科（病態系）	科長	38	年
浅海 淳一	歯科放射線・口腔診断科	科長	35	年
宮脇 卓也	歯科麻酔科	科長	31	年
上岡 寛	矯正歯科	科長	30	年
森田 学	予防歯科	科長	33	年
仲野 道代	小児歯科	科長	26	年
千田 益生	総合リハビリテーション部	部長	36	年
曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	部長	20	年
江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	センター長	31	年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか，外部機関が主催する研修会等に参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署，チーム等において，多職種の連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域等に関する症例検討，勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 金澤 右
管理担当者氏名	医療情報部長 郷原 英夫, 放射線部長 金澤 右, 医療安全管理部長 大野 貴司, 感染制御部長・医療機器安全管理室長 塚原 宏一, 薬剤部長 千堂 年昭, 看護部長 宗宮 昌子, 総務課長 木村 勝弘, 医事課長 直原 敦美, 各科診療科長・中央診療施設長

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科, 中央診療施設
		処方せん	薬剤部
		手術記録	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		看護記録	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		検査所見記録	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	企画・広報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	掲 規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理室 医療安全管理部

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課、医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課、医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人監査室
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・企画部総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・企画部総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 金澤 右	
閲覧担当者氏名	企画・広報課長 早川 みどり、医事課長 直原 敦美	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 4 階	
閲覧の手続の概要 閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続きを行う。 ① 開示請求の受付 ② 開示等の検討 ③ 開示等の決定・通知 ④ 開示の実施		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地 方 公 共 団 体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
・指針の主な内容： ・医療安全管理に関する基本的な考え方 ・医療安全管理のための委員会・医療安全管理責任者の配置 ・医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・医療安全管理部 ・医療事故発生時の対応に関する基本方針 ・医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） ・患者からの相談への対応に関する基本方針 ・高難度新規医療技術・未承認新規医薬品・医療機器等についての安全管理 ・内部通報窓口の設置 ・外部監査の実施 ・特定機能病院間におけるピアレビュー ・その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築、事故防止への包括的アプローチの必要性）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・設置の有無（①・無） ・開催状況：年12回 ・活動の主な内容：次の各事項を審議する。 ・病院における医療安全管理に関する重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること（省令第一条十一ニロについて実施） ・定期的な事故防止対策に関する調査及び方策の見直しに関すること（省令第一条十一ニハについて実施） ・入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の実態及び発生前の状況の報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合について、実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための研修及び指導に関すること（省令第一条十一ニロ、ハについて実施） ・その他医療安全に関すること（省令第一条十一ニイ、ロ、ハについて実施）	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
・研修の内容（すべて）： 1) 「多職種で取り組む！せん妄に対する実践的・効果的なアプローチ」（全職員対象共通内容） 2) 「緊急！！MR！事故防止」（全職員対象共通内容） 3) 「まず学ぶ！安全管理体制 外部監査 内部通報窓口と患者相談窓口」（感染制御部と合同研修、全職員対象共通内容） 4) 「1000件の医療事故に触れた経験から～未然防止につなげる～」（全職員対象共通内容）	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - ・ マニュアルの整備
 - ・ インシデントレポートシステム
 - ・ リスクマネジャーの配置
 - ・ 医療安全管理委員会の設置
 - ・ 医療事故等調査委員会
 - ・ 医療安全管理者の巡視による改善策実施状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 委員会について 3) 感染制御部の業務内容 4) 院内感染対策のための職員教育及び研修 5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針 7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 9) 他施設との感染対策地域連携に関する基本方針 10) 一種感染症指定病院としての基本方針 11) 一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症により入院する患者の権利等	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年48回
・ 活動の主な内容： ・ 感染予防対策委員会 1回／月 合計12回 ・ リスクマネジャー会議（この中でICT全体会議と医療安全会議を行う） 1回／月 合計12回 ・ 感染制御部職員会議 1回／月 合計12回 以上3委員会は、それぞれ連携して以下の活動をする。 ① 耐性菌サーベイランス、侵襲的処置別感染症サーベイランス ② 感染予防対策立案と指導、マニュアルの管理 ③ 抗菌薬使用の管理 ④ ICT（リスクマネジャーがICTメンバーを兼ねる）との連携 ⑤ 重症感染症、特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション ⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営 ⑦ 針刺し、体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導 ⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核、流行性疾患など） ⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導、環境整備に関する管理と指導 ⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与 ・ 看護部感染対策委員会 1回／月 合計12回 手指衛生のコンプライアンスの測定と改善 感染防止の視点からの看護手順の作成 環境整備の状況把握と指導	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年19回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 全職員対象院内感染対策講習会 3回／年（各会1回、②は医療安全研修会と合同開催） ① 結核の院内感染予防とトリージ診療、針刺し事故防止、肝炎スクリーニング検査の最近の状況、スタンダードプリコーション ② まず学ぶ！安全管理体制 外部監査 内部通報窓口と患者相談窓口、海外渡航前における感染対策、海外渡航後における感染症対策、命つなぐ心肺蘇生法 ③ 周術期における抗菌薬の適正使用、抗菌薬のTDMについて、肝炎検査結果説明義務について 2) 新規採用者研修 1回 3) 主に看護師対象感染防止技術研修会 12回 〈内容〉感染予防対策に関する基本的な事項、Device関連の感染予防策、流行性疾患対策など 4) 看護補助者に対する研修会 2回 標準予防策 講義と実技 5) 委託業者（清掃業者）に対する研修会 1回 針刺し予防・標準予防策	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 感染予防対策委員会、リスクマネージャー会議、病院連絡協議会、看護部感染対策委員会、看護師長会などを通じて毎月重要な情報伝達と周知を行っている。
 - ・ 感染制御部NEWSを1回／2ヶ月のペースで配信し、流行している疾患の情報や新規作成または改訂したマニュアルの情報提供を行っている。また、随時、所属長宛にその都度メール配信して注意喚起や情報提供を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
- 研修の主な内容： - 平成30年4月 新規採用職員オリエンテーション－医療事故防止について(薬剤部)－ - 平成30年12月 抗菌薬のTDMについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (①・無) - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： - 医薬品の採用・購入に関すること - 医薬品の管理に関すること(麻薬を含む) - 患者の持参薬歴情報等の収集、処方せんの記載に関すること - 患者に対する与薬や服薬指導に関すること - 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関すること - 他施設(病院等、薬局等)との連携に関すること - 病棟における医薬品管理に関すること - 未承認薬等の使用状況の収集および周知状況に関すること 各担当部署に「医薬品の安全使用のための業務に関する業務手順書」に基づくチェックリストを作成し、定期的(月1回)に医薬品安全管理責任者が実施状況の確認を行っている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： - リツキサン(抗NMDA受容体脳炎の治療) - リツキサン(頻回再発型ステロイド依存性ネフローゼ症候群の治療) - グリベック(転移性脊索腫の治療)	

マイトマイシン（翼状片の治療）

ユーゼル（難治性気胸，難治性肺癰，乳び胸の治療のため）

ヤーボイ（切除不能転移性腎細胞がんの治療）

オブジーボ（肝細胞がん）

・ その他の改善のための方策の主な内容：

毎月、業務手順書に基づき薬品情報室にて収集した情報を、院内情報誌（DIニュース）に掲載し、各診療科，中央診療施設，看護部等に配布し情報提供を行っている。安全性情報については院内メールを活用して情報配信できる体制を整備しており，イエローレーター等の特に重要な情報については薬剤部門システムより処方医を特定し，情報提供している。また，月1回開催されるリスクマネジャー会議では当該月に発生した事例を基に医薬品安全使用に関する警鐘事例として情報提供を実施している（昨年度：12例）。「医薬品の安全使用に関する情報の整備，周知及び当該周知の状況の確認」としては，DIニュース，緊急安全性情報および安全性速報等を情報提供する際，“医薬品情報に関する確認書”を用いて院内の周知状況を確認する体制を構築し運用している。

未承認薬等の使用情報については，未承認新規医薬品・医療機器評価委員会での審査情報や薬剤師が調剤および病棟業務等を実施する中で医薬品の未承認使用等に関する情報を収集し，その情報を薬剤部内で一元管理している。収集した未承認薬等の情報については，定期的に医療安全管理責任者へ情報提供を行い情報共有に努めている。また，未承認薬等の使用情報については，必要に応じてDIニュースやリスクマネジャー会議等で院内全体へ周知できる体制を整備している。

薬剤師が調剤および病棟業務を実施する中で，医薬品による有害反応の重篤化の回避，未然回避，さらには薬物治療効果の向上に貢献した事例および発生状況等の分析結果については毎月院内リスクマネジャー会議および医療安全管理委員会で報告（昨年度：12回）を行い，院内全体における医薬品の安全使用を目的とした取組みを行っている。

さらに毎月，薬剤部で発生したインシデントについては部内のリスクマネジャーによる事例検討会を開催し対応策について検討を行っている。（昨年度：12回開催）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年107回
- 研修の主な内容： - 定期研修 - 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講(学会主催のもの) - 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について - 血液浄化装置：同 上 - 除細動装置：同 上 - 閉鎖式保育器：同 上 - 注入ポンプ(PCAポンプ)：同 上 - MRI装置の安全性 - 放射線治療装置の安全管理 - RALS緊急時マニュアル - マイクロセレクトロンHDR-V2の安全性 - 新しい医療機器導入時の研修 - 除細動装置の更新に伴う新規導入時研修 - DiscoveryCT750HD HDe2→HDe5バージョンアップについて - 自動免疫電気泳動装置更新時研修 - 免疫リーダー更新時研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (①・無) - 機器ごとの保守点検の主な内容： - 機器ごとの保守点検の主な内容： - 人工心肺装置：定期点検(年1回)、日常点検(始業点検/終業点検) - 人工呼吸器：定期点検(年2回)、使用前点検 - 血液浄化装置：定期点検(年2回)、使用前点検、透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定、細菌培養(毎月) - 除細動装置：定期点検(年2回) - 閉鎖式保育器：定期点検(年2回) - X線装置：定期点検(機種により年1~4回)、使用前点検 - 診療用放射線照射装置：定期点検(年1回)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) - PMDAより情報収集 - メーカー、業者からの報告 - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： - その他の改善のための方策の主な内容： - 人工呼吸器加湿器電源入れ忘れ事例への対応 - 低圧持続吸引器内部回路外れ事例への対応 - 輸液ポンプ注入量誤差事例への対応 - 日本光電モニター不具合事例2件への対応 - 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集 - 全国国立大学法人 放射線診療部門会議 医療安全委員会 NEWSLETTERからの情報収集	

(注) 前年度の実績を記入すること。

第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期
第1期	第2期

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	① 有 ・ 無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として、医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理者の各業務について確認を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② 有（1名） ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬品情報管理室は、院内における医薬品の使用状況、院内におけるインシデント情報、医薬品に対する問い合わせ情報、さらにはPMDA等から発信される情報を収集している。さらに、得られた情報については、効果的に活用されるように院内情報誌（DI ニュース）等に加工し、院内の全部署へ情報提供を行っている。また、イエローレターやブルーレターのように特に重篤な情報については、薬剤部門システム等を活用し処方医の選定を行い、各処方医へ情報提供を実施している。また、「医薬品に関する情報の周知の状況の確認」としては、薬剤部から情報提供する際、“医薬品情報に関する確認書”を添付し、それを用いて院内の周知状況を確認している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品の使用状況の把握については、調剤時または病棟薬剤業務等の業務を遂行する中でその情報の収集に努めている。薬剤師が未承認薬等の使用を把握した際は、処方医に対して未承認薬等の使用であることの情報提供、処方の必要性、有害反応の発現性、さらに処方の妥当性について処方医に確認を行う。また、薬剤師が把握した未承認薬等の使用情報については薬剤部内で一元管理を行い、その情報は定期的に医療安全管理責任者へ報告している。	
・ 担当者の指名の有無（③ 有） ・ 無	
・ 担当者の所属・職種：	
（所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (④・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 定期的にインフォームド・コンセントの実施状況を確認し、必要に応じて診療科長等会議において、報告及び指導等を行う。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	⑤・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療記録管理委員会の下部組織である「診療記録の監査に関する小委員会」や診療 WG において多職種の参加メンバーで組織的な質的監査を継続的に行っている。診療情報管理室では退院 1 週間後を目途に退院患者全件に対して量的監査（入院診療計画書、手術記録、退院時要約など）を実施している。監査結果については「診療記録の監査に関する小委員会」で報告、小委員会の委員長より診療科長等会議にて院内周知を行っている。 主な指導内容としては、退院時要約の記載について、不備のない同意書の記載について、不備のない入院診療計画書の記載について、経過記録への記載についてなど。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	⑥・無
・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（２３）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（９）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（２）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： - インシデントレポートの集計、分析及びフィードバック並びに再発防止策の立案及び提出などのインシデントの再発防止に関すること。 - 医療安全管理に関するマニュアルの作成及びガイドラインの策定に関すること。 - 職場の安全点検活動及びモニタリングに関すること。 （死亡・死産事例、画像診断における緊急対応事例と検査目的外の所見に対する診療内容、患者誤認に関する部署内検討会の実施状況、急変患者のモニタリング、救急カートの点検・整備） - インシデント発生後の対応及び調整などに関すること。（患者・家族への対応も含む。）	

5. 医療安全に関する教育、啓発及び広報などに関すること。
6. 全国医療安全管理協議会に関連した情報交換業務及び全国的調査に関すること。
7. 薬剤・医療機器メーカー及び行政への提言に関すること。
8. 全死亡症例の把握
9. その他・各種委員会、ワーキングメンバーとしての活動

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：提供の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、適用症例の事後検証など
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（32件）、及び許可件数（32件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：提供の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、適用症例の事後検証など
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年190件（H30.4～H31.3）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年68件（H30年度）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療事故の防止及び対策、医療事故防止マニュアルの作成、医療事故防止の教育・研修、及び警鐘事例周知、インシデントレポート件数の把握、3b以上の把握等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒（病院名：金沢大学附属病院 11/7 実施）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒（病院名：宮崎大学医学部附属病院 11/2 実施）・無）
- ・技術的助言の実施状況
11月2日の特定機能病院相互のピアレビュー講評を受けて、再審査の手順・ルールについての客観的な資料の見直しがなされた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
総合患者支援センターが窓口となっており、医療事故等に関する場合は、医療安全管理部に連絡が入り、対応を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
平成30年度は、平成30年4月3日に新規採用職員オリエンテーション「医療事故防止について等」と平成30年9月10日に第3回医療安全に関する職員全体研修会「まず学ぶ！安全管理体制・外部監査・内部通報窓口と患者相談窓口」（規則第9条の20の2第6号口、同条の20の2第9号イ）について研修を実施した。
また、平成30年10月から11月にかけて病棟薬剤師により全看護師に向けて「筋弛緩薬の管理について」（規則第9条の20の2第3号）の研修を実施した。

注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の

員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

平成30年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）を下記の日程で受講した。

管理者（金澤 右）：平成31年1月23日（水）

医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者（塚原 宏一）：平成30年11月23日（金）

医薬品安全管理責任者（千堂 年昭）：平成31年1月23日（水）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 ○人格が高潔で、学識が優れ、教育及び医療に関し高い見識を有すること ○リーダーシップを発揮し、本学の運営方針に基づき、病院運営にあたる者として、学長と基本的な方向性を共有していること ○医療法その他関係法令に基づく管理者として求められる能力及び経験を有する者であること - 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） - 公表の方法 ○大学ホームページにて公表
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有・無			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（☒有・無） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（☒有・無） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（☒有・無） - 公表の方法 ○選考に係る諸規定、委員名簿、選考結果等については、大学ホームページにて公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
高橋 香代	理事（企画・評価・総務担当）	○	病院を含めた大学の組織運営について総合的に担当する立場であるため	☒ 有・無
那須 保友	大学院医歯薬学総合研究科・研究科長		病院と深く関連のある部局の長であるため	☒ 有・無
竹田 芳弘	大学院保健学研究科・研究科長		病院と深く関連のある部局の長であるため	☒ 有・無
大塚 愛二	大学院医歯薬学総合研究科・医学部長		病院と深く関連のある部局の長であるため	☒ 有・無
浅海 淳一	大学院医歯薬学総合研究科・歯学部長		病院と深く関連のある部局の長であるため	☒ 有・無
三好 伸一	大学院医歯薬学総合研究科・薬学部		病院と深く関連のある部局の長であるため	☒ 有・無

	長			
宗宮 昌子	大学病院・看護部長		病院看護部の長であり、病院経営に関わる立場であるため	有・無
山口 太司	大学病院・事務部長		病院事務部の長であり、病院経営に関わる立場であるため	有・無
越宗 孝昌	山陽新聞社・取締役会長		企業経営に対して幅広い見識を有する学外者であり、大局的な視点で選考に関わってもらうため	有・無
松山 正春	岡山県医師会・会長		医療行政に対して幅広い見識を有する学外者であり、大局的な視点で選考に関わってもらうため	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☒ 有 ☐ 無
・合議体の主要な審議内容 合議体として、診療科長等会議を設置しており、病院長の諮問に応じて次の事項について審議を行う。 ・ 病院の運営の方針に関する事項 ・ 病院の中期計画に関する事項 ・ 病院の予算編成及び決算に関する事項 ・ その他病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ・ 合議体（診療科長等会議）の構成員である診療科長等から、所属診療科内へ周知 ・ 医局長等を構成員とする病院連絡協議会において、合議体（診療科長等会議）の審議の概要を報告 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ ☒ 有 ☐ 無 ）	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
金澤 右	○	医師	病院長, 診療科長, 教授
大塚 文男		医師	副病院長, 診療科長, 教授
増山 寿		医師	副病院長, 診療科長, 教授
宮脇 卓也		歯科医師	副病院長, 診療科長, 教授
豊岡 伸一		医師	副病院長, 診療科長, 教授
前田 嘉信		医師	副病院長, 診療科長, 教授
柳 文修		歯科医師	副病院長, 診療科長, 教授
塚原 宏一		医師	副病院長, 診療科長, 教授
宗宮 昌子		看護師	副病院長, 診療科長, 看護部長
岡田 裕之		医師	診療科長, 教授
木浦 勝行		医師	診療科長, 教授

和田 淳		医師	診療科長, 教授
伊藤 浩		医師	診療科長, 教授
阿部 康二		医師	診療科長, 教授
草野 展周		医師	診療科長, 教授
藤原 俊義		医師	診療科長, 教授
八木 孝仁		医師	診療科長, 教授
土井原 博義		医師	診療科長, 教授
渡邊 豊彦		医師	診療科長, 准教授
笠原 真悟		医師	診療科長, 教授
野田 卓男		医師	診療科長, 教授
尾崎 敏文		医師	診療科長, 教授
木股 敬裕		医師	診療科長, 教授
森実 真		医師	診療科長, 教授
白神 史雄		医師	診療科長, 教授
西崎 和則		医師	診療科長, 教授
山田 了士		医師	診療科長, 教授
伊達 勲		医師	診療科長, 教授
森松 博史		医師	診療科長, 教授
大月 審一		医師	診療科長, 教授
小林 勝弘		医師	診療科長, 教授
岩崎 達雄		医師	診療科長, 教授
片山 敬久		医師	診療科長, 講師
中尾 篤典		医師	診療科長, 教授
柳井 広之		医師	診療科長, 教授
田端 雅弘		医師	診療科長, 教授
平沢 晃		医師	診療科長, 教授
鳥井 康弘		歯科医師	診療科長, 教授
吉山 昌宏		歯科医師	診療科長, 教授
高柴 正悟		歯科医師	診療科長, 教授
窪木 拓男		歯科医師	診療科長, 教授
皆木 省吾		歯科医師	診療科長, 教授

飯田 征二		歯科医師	診療科長, 教授
佐々木 朗		歯科医師	診療科長, 教授
浅海 淳一		歯科医師	診療科長, 教授
上岡 寛		歯科医師	診療科長, 教授
森田 学		歯科医師	診療科長, 教授
仲野 道代		歯科医師	診療科長, 教授
大野 貴司		医師	部長, 教授
千田 益生		医師	部長, 教授
吉野 正		医師	部長, 教授
曾我 賢彦		歯科医師	部長, 准教授
稲垣 兼一		医師	センター長, 教授
大藤 剛宏		医師	教授
難波 祐三郎		医師	センター長, 教授
平岡 佐規子		医師	センター長, 准教授
江草 正彦		歯科医師	センター長, 教授
郷原 英夫		医師	部長, 教授
千堂 年昭		薬剤師	部長, 教授
四方 賢一		医師	教授
王 英正		医師	教授
渡部 昌実		医師	教授
堀田 勝幸		医師	教授
岡田 健		臨床検査技師	医療技術部長
徳山 久丈		事務	部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法
大学のホームページにて公表
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 病院長は、病院の管理及び運営に必要な人事（岡山大学長が任命権を有するものを除く。）及び予算執行権限を有する。
 - (2) 病院長は、病院の運営の方針、中期計画、予算編成、決算及びその他の病院の運営に関する重要な事項については、診療科長等会議の議を経て決定する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長を助け、病院長の職務を円滑に遂行させるため、それぞれ以下の業務を分担している。
 - (1) 総務・企画運営担当 (2) 診療（医科）担当 (3) 診療（歯科）担当
 - (4) 教育（医科）担当 (5) 研究（医科）担当 (6) 教育・研究（歯科）担当
 - (7) 医療安全管理担当 (8) 看護・患者サービス担当また、病院長、副病院長に医療情報部長、看護部長、事務部長等で組織された経営戦略会議において病院の経営戦略（企画・分析）に関する事項等について検討・協議を行っている。
なお広報については、事務部に企画・広報課を置き対応している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - (1) 病院長の職務を円滑に遂行させるため、副病院長を複数名置き、それぞれ管理運営に関する業務を分担している。
 - (2) 特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）に病院長及び副病院長（医療安全管理担当）が参加している。
 - (3) 国立大学附属病院長会議が行っている病院長塾に副病院長が参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無
・監査委員会の開催状況：年2回（令和元年度第1回委員会を6月11日に実施，年内に第2回委員会を実施予定） ・活動の主な内容： ○病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査について審議する。 ○安全管理状況及び改善状況について審議する。 ○病院の業務状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認する。 ○審議の結果に基づき，学長及び病院長に是正措置を講じるよう意見を提出する。 ○審議の結果及び監査意見を公表する。 ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・委員名簿の公表の有無（有・無） ・委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法： ホームページに掲載	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会 (会長)	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
長谷川 威	長谷川威法律事務所（弁護士）		法律に関する識見を有するため	有・無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学 (名誉教授)		医療を受ける者の代表者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は，次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

岡山大学内部統制委員会において、業務の有効性及び効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、事業活動に係る法令等遵守の促進を図るため、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告に基づき、適宜改善策を検討している。

・ 専門部署の設置の有無（☒有・無）

・ 内部規程の整備の有無（☒有・無）

・ 内部規程の公表の有無（☒有・無）

・ 公表の方法

大学ホームページにて公表

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法（平成 15 年法律第 112 号）の規定に基づき、経営協議会を設置して、中期計画及び年次計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、並びに予算の作成、執行及び決算に関する事項として病院を含めた法人の経営に関する事項を審議している。 その他に大学内に病院の管理者を含めた大学の役員等を構成員とした大学政策会議を設置して、病院の経営状態を報告している。なお、2019 年 4 月から大学経営戦略会議へ移行して、引き続き、病院の経営状態を報告している。 ・ 会議体の実施状況（経営協議会 4回 大学政策会議 7回 大学経営戦略会議 22回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☒有・無☐） （経営協議会 3回 大学政策会議 6回 大学経営戦略会議 19回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無☐） ・ 公表の方法 経営協議会について、会議の規程、委員名簿及び議事要旨を、大学ホームページにて公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有・無）
・ 通報件数 年 0 件
・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有・無）
・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有・無）
・ 周知の方法 ホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・ 日本医療機能評価機構による病院機能評価 平成 27 年 1 月受審 平成 27 年 4 月認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ・ ホームページ及び定例記者発表等を通じての情報発信 ・ 市民等を対象とした公開講座等の開催	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・ 診療科等の連携によるセンターの設置 ・ 複数の診療科で構成する中央診療施設の設置	